

メディアサプライチェーンを 最適化するための 5つのヒント

AWS を使用してデータドリブンなメディアサプライ
チェーンを開発する



データドリブンなメディアサプライチェーンの現状

新しいシリーズや劇場作品を制作する場合でも、過去に制作したコンテンツのアーカイブを収益化する場合でも、データドリブンなメディアサプライチェーンの構築は必要不可欠なものとなっています。サプライチェーン全体でデータを使ったスマートな意思決定や戦略を用いることで、コストを削減し効率を高めながら、アセットへのアクセスと管理をより簡単に行えるようになります。

デジタルコンテンツ管理のデータドリブンなアプローチにはこのようなメリットもありますが、いくつかの課題ももたらします。具体的には次のとおりです。

- **アーカイブのデジタイズ** - 制作会社は数十年分のテープライブラリをデジタイズしながら、データの消失やテープライブラリへのダメージを最小限に抑える必要があります
- **グローバル化** - 配信先の拡大によって、より多くのローカライゼーションが必要になるほか、権利やメタデータの管理が増加しています
- **耐久性** - セキュリティやプライバシーの保護、テクノロジーのモダナイゼーションについては依然として継続的な課題です

この日本語ガイドでは、Amazon Web Services (AWS) を使ってメディアサプライチェーンを最適化するための 5 つのヒントをご紹介します。

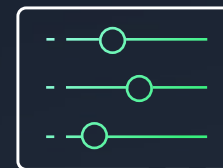
データドリブンなアプローチにまつわる課題



さまざまなタイプの新しいコンテンツアーカイブの増加



配信の国際化に伴うローカライゼーション需要の高まり



ワークフローとオペレーションの耐久性と統合



メディアサプライチェーンと アーカイブに特化した ソリューション

メディア・エンターテインメント (M&E) 業界は、コンテンツ制作手法の革新、メディアサプライチェーンの最適化、ストリーミング/放送/Direct-to-Consumer (D2C) プラットフォームにおける視聴者の獲得競争など、業界全体が大きな変革に直面しています。Discovery、Disney、Formula 1、Netflix といった企業がクラウドを利用した新しいエンターテインメントを開拓し、新しいストリーミングサービスの開始、コンテンツカタログの拡大、視聴体験の新しいスタンダードの確立を実現しています。

AWS はコンテンツ制作から保存、処理、配信までを一元化できる、特化型のクラウド機能を提供します。こういったソリューションを活用することで、組織はリソースを最適化し、コスト効率を高め、コラボレーションを可能にし、コアビジネスに集中することができます。

ヒント 1

コンテンツレイクの構築

コンテンツレイクとは、所有するメディアへのアクセスと作業を容易にするための、デジタルアセットが統合されたストレージリポジトリです。

コンテンツレイクにデータを集約することでコンテンツ管理が簡単になり、高度な機能をすぐに使い始めることができます。

以下のような機能が含まれます。

- オンプレミス、クラウド、またはハイブリッドクラウド環境で Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) をネイティブで実行する (注: Amazon S3 コネクタが必要)
- デジタル化されたメディア、クラウド上で生成されたデータ、またはカメラから直接など、さまざまなソースから Amazon S3 を使用してコンテンツレイクを構築する
- クラウド上の仮想マシンである Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を実行して、ライブキャプチャデータにアクセスし、作業をすぐに始める
- データの移動や移行、外部への送信、または再びテープに書き込む必要なく、データを適切にアーカイブする

コンテンツレイクを使用することで、これまでコンテンツ管理に費やしていた時間やリソースを削減でき、革新的なユーザーエクスペリエンスを提供することに集中できます。



ヒント 2

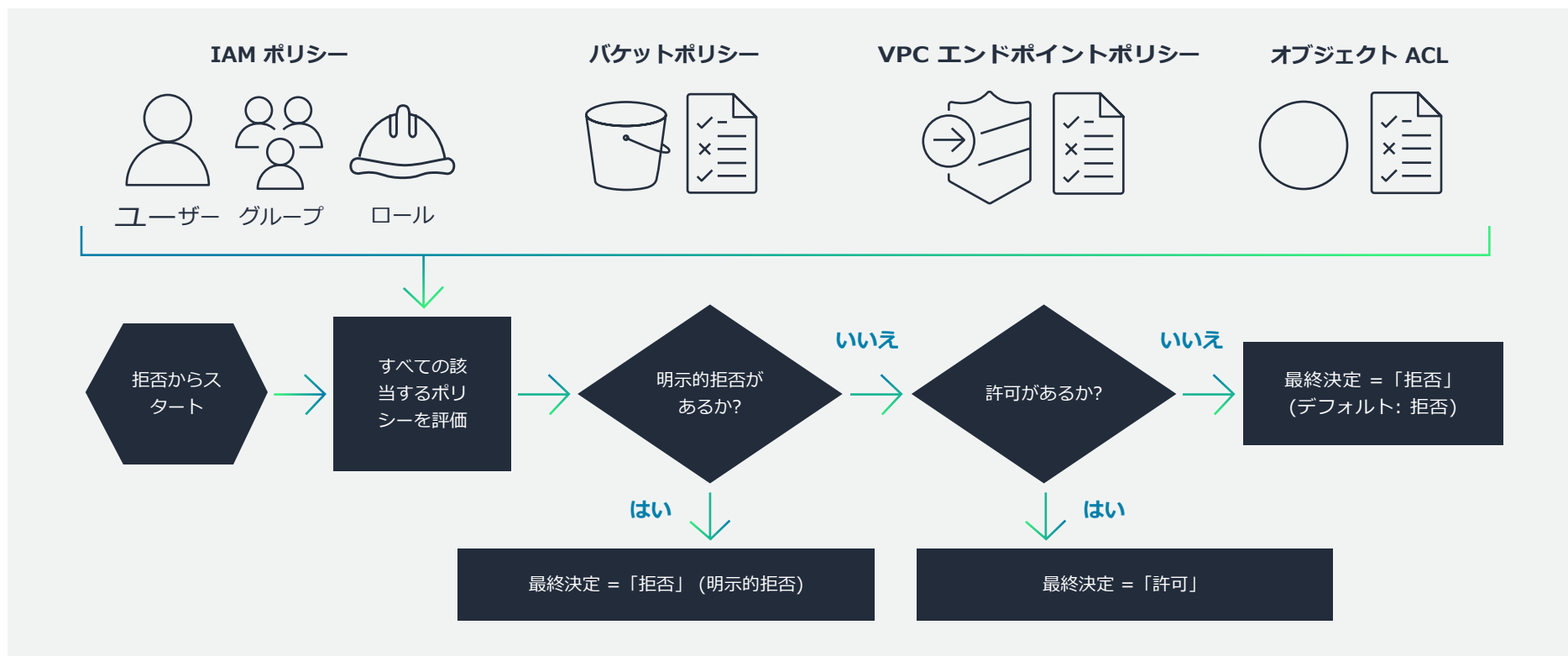
コンテンツレイクのセキュリティ保護と管理

自社の知的財産を扱う場合でも、他社から業務を請け負う場合でも、コンテンツのセキュリティ保護は最重要事項です。AWS コンテンツレイクのアーキテクチャは、許可されたユーザーだけがデータにアクセスできるように設計されています。まず最初は、アカウント管理者を含むすべてのユーザーによるデータへのアクセスを禁止する「ノーアクセス」ポリシーが適用されています。

AWS Identity and Access Management (IAM) ツールを使用すると、お客様独自の基準に基づいて、アクセス権限を作成することができます。

アクセス権限は、ユーザー、ロールタイプ、個別のデータなどの基準に基づいて付与できます。また、必要に応じて、IAM バケットポリシーをワークフローにアタッチすることもできます。

このアプローチなら、社内チームメンバー、ベンダー、プロジェクトの他の関係者を含め、データにアクセスできるユーザーを確実に管理できます。Amazon S3 にコンテンツを保存することで、コンテンツの移動の必要性を低減し、全体的な制作期間やコストを削減できます。



ヒント 3

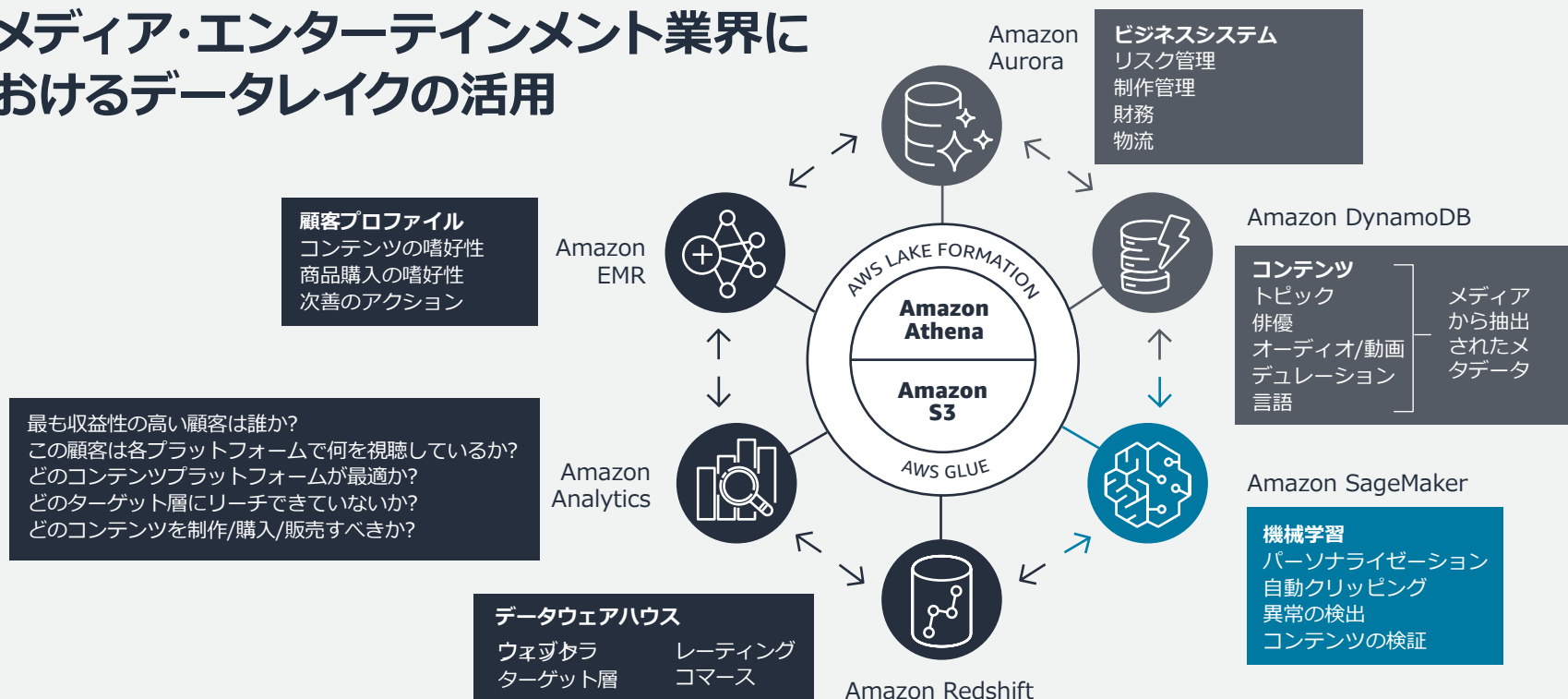
データレイクを使った統合データ戦略の開発

データレイクとは、あらゆる規模ですべての構造化データと非構造化データを保存できる、一元化されたリポジトリです。データを構造化せずにそのまま保存できるほか、ダッシュボードやデータの可視化に始まりビッグデータ処理、リアルタイム分析、機械学習まで、さまざまなタイプの分析を実行できるため、より良い意思決定を行うことができます。

データレイクを使うことで、メディアサプライチェーンをモダナイズし、従来のデータサイロやデータウェアハウスからは得ることができないインサイトを獲得することができます。

コンテンツ制作の加速化、レガシーアーカイブの管理、新しいコンテンツエンゲージメント戦略の構築などが、より簡単になったと感ずることでしょう。例えば、ターゲット層、パフォーマンス、収益性に基づいて、どのようなタイプのコンテンツを取得すべきか、また制作すべきかについて、より精度の高い意思決定を行えます。データレイクを使うと、従来のバックオフィスデータや財務データを視聴体験やコンテンツ分析と結びつけ、より強力なインサイトを得ることで、質の高い関連性のあるコンテンツを制作することができます。

メディア・エンターテインメント業界におけるデータレイクの活用



シナリオ 1

サプライヤーやコンテンツ制作会社からの膨大な量の未編集の下見用フィルムや編集用素材をインGESTする会社では、コンテンツの検索が課題となっています。

解決策

コンテンツを適切にインデックス化するために AI/機械学習処理を使用してメタデータを生成する

AWS が提供するフルスイートのマネージド AI/機械学習サービスでオーディオや動画コンテンツを分析、記述、翻訳、インデックス化することで、編集者やプロデューサーが関心の高いコンテンツや人による分析が必要なセグメントを特定できるようになります。このコンテンツはソースから得られる技術的なメタデータと結び付けられているため、QC、編集、バージョンングなどのサプライチェーンの各フェーズにおいて、コンテンツの検索、フラグ立て、修正が容易であり、最終的なコンテンツを配信するまでの時間を短縮できます。

データレイクの活用

データレイクアーキテクチャの効果についてさらに理解を深めるため、メディア・エンターテインメント業界のいくつかの一般的なシナリオで AWS ソリューションがどのような成果をあげることができるか見ていきましょう。

シナリオ 2

コンシューマー向けの新しいメディアアプリケーションを提供し始めたが、顧客がコンテンツに費やす時間を増やしたいと考えています。

解決策

視聴者にパーソナライズされたレコメンデーションを提供する

新しいプラットフォームの普及やコンテンツの爆発的な増加によって、顧客に自社のプラットフォームでより多くの時間を費やしてもらうために、顧客の関心と視聴習慣に合ったコンテンツを提供することが重要になっています。

Amazon Personalize を使用すると、デベロッパーは Amazon.com が使用しているものと同じ機械学習テクノロジーを使って、リアルタイムにパーソナライズされたレコメンデーションを行うアプリケーションを構築することができます。機械学習の専門的知識は必要ありません。

Amazon Personalize は、静的なルールベースのレコメンデーションシステムではなく、フルマネージド機械学習サービスです。カスタマイズされた機械学習モデルのトレーニング、チューニング、デプロイにより、視聴者に高度にカスタマイズされたレコメンデーションを提供し、視聴時間の増加と視聴体験の向上を実現します。

シナリオ 3

コンシューマー向けの新しいメディアアプリケーションを提供し始めたが、どのコンテンツが顧客に反響があるかを確認することができません。

解決策

Amazon Redshift と Amazon QuickSight を使って データからインテリジェンスを引き出す

AWS のソリューションを使うと、メディアサプライチェーン全体でデータの集計、分析、およびインテリジェントな活用を行うことができます。Amazon Redshift は高いスケーラビリティを持つデータウェアハウスで、動画プレイヤーのログ、ウェブトラフィック、顧客ターゲット層、サードパーティーレーティング、ソーシャルメディアのファイアホースからのデータを活用できます。このデータを Amazon QuickSight でビジュアル化し、「最も収益性の高い顧客は誰か?」、「特定の視聴者に最適なコンテンツプラットフォームは何か?」、「どのターゲット層にリーチできていないか?」などの質問への回答を得ることができます。

ヒント 4

俊敏性を高めメディア処理をグローバル化

コンテンツ需要の世界的な高まりは、メディア・エンターテインメント企業にとってオポチュニティの拡大を意味します。高い俊敏性を確保することで、リモートコラボレーションの促進、堅固なセキュリティ、世界中の視聴者へのサービスの提供を実現することができます。俊敏性の高いメディア・エンターテインメント企業は、コンテンツをより効率的に管理し、デジタルアセットを適切に保存できる安全かつアクセスの容易なアーカイブを維持しつつ、メディアのライフサイクル全体を通してリアルタイムのイテレーション（反復と改善）とフィードバックの恩恵を受けることができます。

AWS を使用すると、データ転送量（アウト）（DTO）費用を支払うことなく、リージョン内のデータを制作後 Amazon S3 バケットに移動したり戻したりすることができます。また、コンテンツ制作過程の途中から多言語化を迅速に始めることができ、機能性や予測性が高まります。

sdvi

プロセスを加速させオートメーションを可能にし、効率とコスト削減を最大限に改善するために、コンテンツは適切なメタデータとともにクラウドに保存する必要があります。SDVI Corporation はメディアサプライチェーン全体を AWS 上で運用しており、以下のようなサプライチェーンパフォーマンスの改善を実現したと公表しています¹。

- コストを 85% 改善しながら市場投入までの時間を 70% 短縮
- 10% 未満のコストでコンテンツの処理速度を 83% 加速
- 運用コストを 25% 削減しながら収益を 23% 向上
- インジェスト処理での人の関与を 80% 削減
- 手動の処理を 40% 削減



ヒント 5

コンテンツの配信と共有方法を合理化

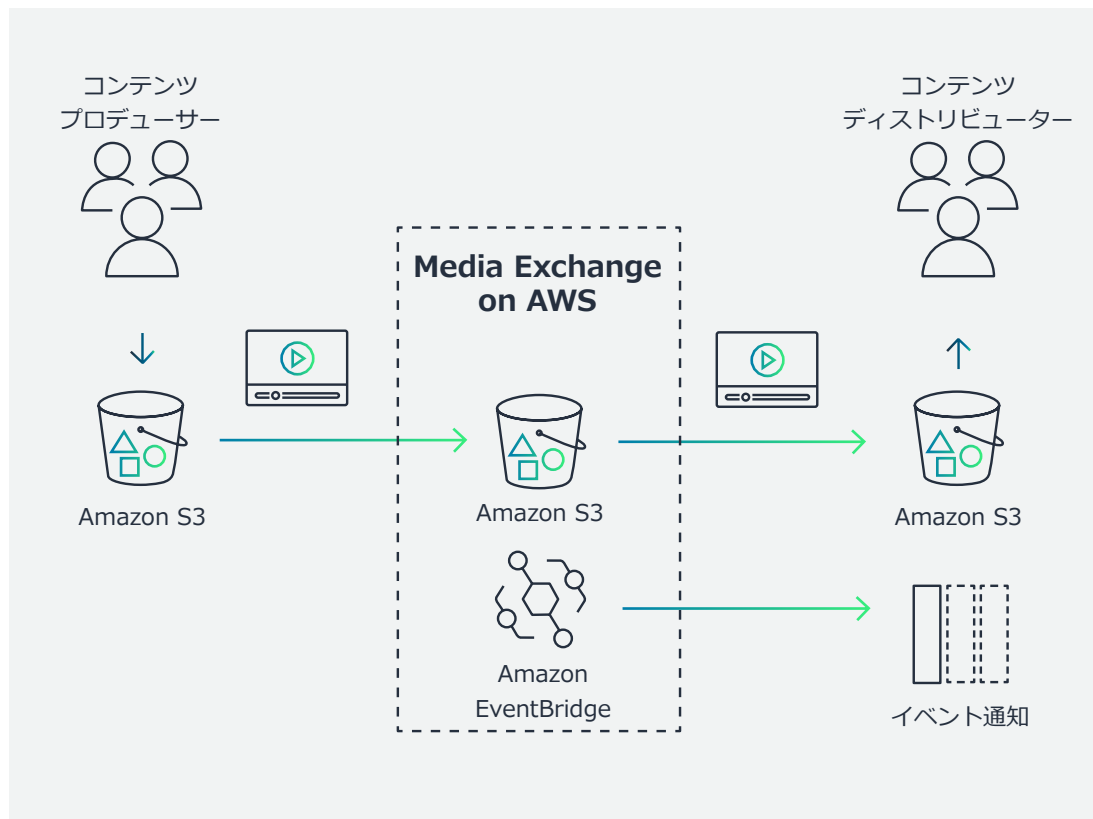
より多くの企業が AWS 製品を自社のメディアサプライチェーンに統合する中、そのプロセスを合理化するための変革を AWS は進めています。例えば、Media Exchange on AWS を使用すると、AWS を使用している他の企業と Amazon S3 上で直接アセットを共有して、時間とコストを削減できます。また、他にも以下のようなメリットがあります。

- API の実装やコードの開発が必要なく、簡単に使用可能
- ワークロードから双方向の転送プロトコルやアプリケーションをなくし、少ない手順でファイルを直接共有
- ファイル共有のみの目的で複数のサーバーを用意することなく Amazon S3 でファイルを受信
- リージョン間でアセットを無料で移動。または、AWS リージョン内のアセットを低額での転送
- 複数の関係者間でさまざまなタイプのアセットを移動するためのスケーラビリティと俊敏性を実現

Media Exchange on AWS は、GitHub と [AWS ソリューションライブラリ](#) でご利用いただけます。

ヒント 5 (続き)

Media Exchange on AWS を 使用したディストリビューション



- ✓ 関係者間でのアセット転送の簡略化
- ✓ 転送コストの削減
- ✓ 品質リスクの低減
- ✓ バージョニングと依存関係の追跡を簡略化
- ✓ イベント通知を使用したワークフロー統合の合理化

AWS を活用したメディアサプライチェーンの最適化

名作のアーカイブ化から新しいコンテンツの制作に至るまで、世界的な需要に応えるためにコストを抑えて効率を高めながら、視聴者に素晴らしい体験を提供し続けるクリエイティブな対応が求められています。プロジェクトで適切なソリューションを使用し AWS のサービス/ソリューション/パートナーの利点を活用することで、メディアサプライチェーン全体で革新的な成果を挙げることができます。

AWS は、コンテンツのインGEST、処理、制作、およびクラウドを介した配信をサポートするメディアサプライチェーン向けの機能を提供しています。また、80 を超える AWS パートナーによって、メディアサプライチェーンに特化したツールやアーカイブアプリケーションが提供されています。

メディアアーカイブ用の最も信頼性の高いストレージオプション、コンテンツライブラリからメタデータを取得するインテリジェンスソリューション、および最大のパートナーネットワークを活用することで、AWS でデータドリブンなソリューションを構築し、メディアサプライチェーンを変革することができます。

AWS を使ったメディアサプライチェーンの最適化を今すぐ始める >